

阿弥陀堂

阿弥陀堂は、隣の御影堂に比べてやや小さいが、装飾性が高く、内陣も広い。これは、浄土真宗の中心的存在である阿弥陀如来の像を安置し、仏教の究極の目的である浄土の輝きと安楽さを表現するためのものである。

現在の阿弥陀堂は、1864 年に東本願寺の他の建物とともに焼失した後、1895 年に完成したものである。入母屋造りの大屋根を、浄土真宗の信者が 15 年かけて京都に運んだ巨木の丸柱が支えている。毎日午前 7 時から行われる朝のお勤めに参加することができる。